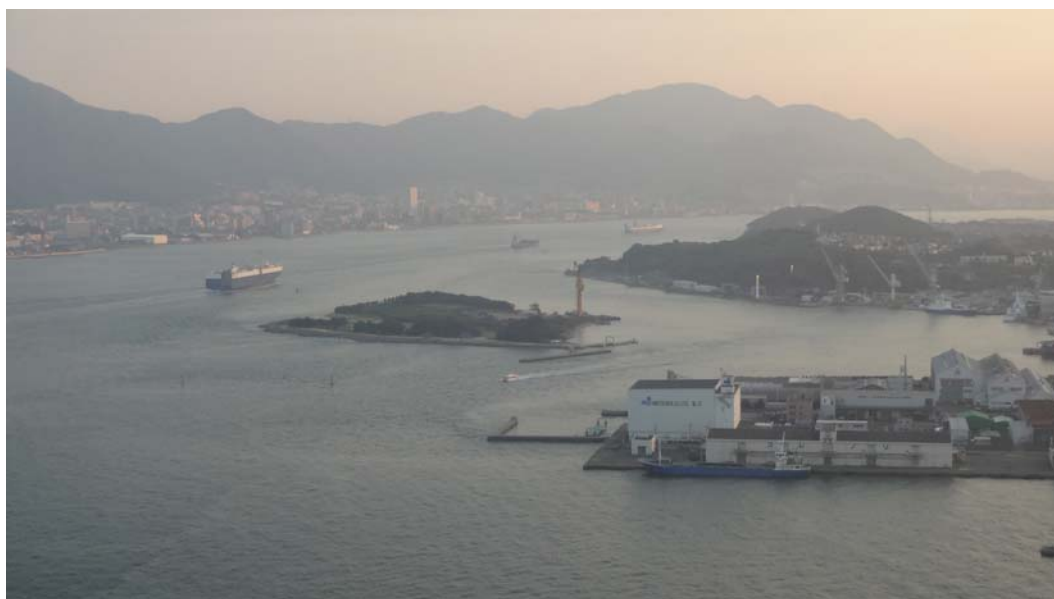


視察報告書

山口県下関市・長崎県対馬市

平成25年10月31日（木）～11月2日（土）



下関市大字彦島字船島（巖流島）

松阪市議会

青凜会

平成25年11月15日

松阪市議会議長 中島 清晴 様

松阪市議会
青凜会 濱口 高志

平成25年10月31日（木）から11月2日（土）の間、行政視察を実施しましたので下記のとおり報告いたします。

記

1. 参加者

青凜会

野口正

沖和哉

濱口高志

2. 視察先および視察事項

（1） 山口県下関市

① 下関市動物愛護センターについて

（2） 長崎県対馬市

① 外国人への対応について（参政権、土地取得、厳原まつり）

② 漁業振興について

3. 視察内容

別紙のとおり

I.山口県下関市

1. 下関市の概要（平成22年10月1日）

- (1) 人口 280,947人
- (2) 世帯数 118,178世帯
- (3) 面積 716.14km²
- (4) 概要

下関市は山口県最大の都市で、本州最西端に位置し、三方を海に囲まれ、古くから天然の良港を有し交通の要所として発展してきた。

平成17年2月13日の豊浦郡4町（菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町）と合併により、源平最後の合戦の場である壇ノ浦古戦場、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘が行われた巖流島の歴史的観光資源にも恵まれ、近年では滞在型観光都市へと発展してきた。

2. 対応者

下関市動物愛護管理センター センター長 和田敏夫氏



下関市動物愛護管理センターにて研修

3. 視察項目

(1) 下関市動物愛護管理センターについて



下関市動物愛護管理センター 和田センター長

1) 下関市動物愛護管理センターの概要

昭和47年に建設された旧施設が老朽化し、中核都市移行に伴う業務量の増大に対応するとともに、近年の動物愛護思想の変化を実現するために、平成17年に「動物ふれ愛ランド下関」事業に着手し、平成21年4月1日に当センターが開館した。

総事業費は約9億6千万円で、造成費を含む施設の建設費は、約8億2千万円となっている。

施設全体の面積は5796.28m²で、愛護棟、管理棟、ふれあいサークルから成っている。

管理棟には犬舎16室、猫舎14室があり、ここで犬猫を受け入れる。獣医師が病気の状態、クセ等を検査をして合格した犬猫が愛護棟に送られる。ここには殺傷処分、死体保管用冷蔵庫、火葬施設があり、不合格の動物はここで処分される。

愛護棟には譲渡犬舎20室（個室）と譲渡猫舎（相部屋）がある。ここで、お見合いをして引き取られていく。お見合い時には、ふれあいサークルで動物とふれあい、新しい飼い主とのマッチングに役立っている。子犬、子猫はすぐに飼い主が見つかるが、成長した犬猫は時間がかかる。しかし、いままで愛護棟に送られた犬猫は全て引き取られている。



管理棟で獣医の検査を待つ子犬、子猫たち

2) 教室の開催

動物愛護センターでは、「命の教室」を定期的を開催しており、平成24年は32回開催した。また、平成24年から、しつけ方教室として「愛犬と楽しく学ぶしつけ教室」を開催している。

ここでは譲渡前講習を行っており、この講習を受けないと、犬猫をもらえないことになっている。これは、安易に動物を飼って、後から責任がとれなくなることを防止するためである。譲渡会は月3回行っている。

また、年1回動物ふれあいフェスティバルを開催し、当センターと地域の交流も行っている。



ふれあいサークルにて犬の訓練中

3) 殺傷処分

従来は注射により職員が1匹ずつ殺傷処分していたが、職員の精神的負担、動物愛護の観点から、当センターでは、世界初の「吸入麻醉剤リサイクルシステム」を採用した。これにより、動物たちは眠るように死んでいき、動物の苦痛もなく職員の精神的負担も大きく軽減された。現在ではシステムのスタートボタンはセンター長が押すことになっているとのことである。

この吸入麻醉剤リサイクルシステムは受注生産品であるため、3億7500万円と高額である。また、メンテナンス費も年間1000万円かかる。麻醉剤も1リットル5万5000円と高額であるが、75%はリサイクルしている。

獣医師の試験で不合格になった動物や、愛護センターがいっぱいの時には、このシステムで殺傷処分され、冷蔵庫で保管される。保管された動物の重量の合計が140～150kgになれば、当施設内で火葬される。



殺傷処分機



冷蔵保管庫



火葬炉



祭壇

4) 職員構成

当センター（愛護棟）の職員は15名で、うち市の正職員が9名（センター長、補佐、主任、主任主事、獣医師3名、業務員2名）、嘱託職員6名（業務員3名、動物世話2名、事務）となっている。

管理棟は年間管理料1753万円で外部委託しており、職員は3名である。

5) 運営

当センターは、12月25日から1月3日のみ休館し、これ以外の日は午前9時から午後5時まで開館している。年間予算は6600万円であるが、そのうち1000万円は犬の登録料、150万円がペットの火葬代で、それ以外は市の一般会計から拠出されている。

保護した動物のエサ代に年間50万円、空調費に360万円ほどかかっている。

6) 犬猫収容処分数

犬の引き取り数は、平成18年の767匹から、平成24年には317匹となり順調に減少している。譲渡数は年間150匹から180匹と変化しておらず、殺傷処分数は減ってきている。

一方、猫に関しては減少傾向はみられない。引き取り数は、平成18年に1289匹、平成20年には1027匹と減少したが、平成21年には1534匹と大幅に増加した。平成24年実績は1107匹と減少しているが、市内に野良猫は多い。（野良犬はほとんど見かけない）

猫は飼い猫であっても犬と違い鑑札が付いてないので、捕獲するのが難しい。犬は狂犬病防止法という根拠があるので捕獲でき、また鑑札で飼い主が分かるので捕獲しやすい。また、猫は年2～3回繁殖期があるため、固体の増加スピードが速いことも野良猫が減らない要因となっている。



ここで火葬された動物の慰霊碑

4. 所感

下関市は中核市であるため、保健所機能が県から委嘱されており、その機能のもとに動物愛護センターが作られている。

しかし、単に野良犬、野良猫を捕まえて殺傷処分するのではなく、飼い主となる人材を発掘、教育し、かわいそうな動物を少しでも減らそうという趣旨には共感が持てた。また、小学校等の年少者に命の大切さを動物愛護を通じて当センターが行っていることも縦割りの範疇を超えた画期的な取り組みであると感じた。

一方で、麻酔ガスによる殺傷施設は建設費だけでなく維持費も高価であるため、もし松阪市で導入するとなると意見が分かれ、導入は難しいのではないかとと思われる。（実際には松阪市は中核市でないため、保健所機能は持てない。）また、獣医師が引き取った犬猫の応急処置をすることも、大半の犬猫が殺傷処分されるため、無駄な気がする。

松阪市でも野良猫・野良犬等の放置された動物に対する苦情が多いが、中核市ではないので保健所機能は持てない。しかし、下関市のような啓発活動や動物愛護団体との連携の強化により、少しでも緩和できるのではないかと感じた。

Ⅱ．長崎県対馬市

1．対馬市の概要

- (1) 人口 33,765人
- (2) 世帯数 15,232世帯
- (3) 面積 708.89km²
- (4) 概要

対馬は、日本海の西に浮かぶ南北82km、東西18kmの細長い島で、北は対馬海峡西水道を隔てて朝鮮半島に面し、南は対馬海峡東水道を隔て九州本土に面している。対馬から福岡までは海路で138kmだが、韓国の釜山まではその半分以上の49.5kmである。地理的に非常に近いこともあり、古くから対馬は大陸との交流で重要な役割を担ってきた。

対馬市は、平成16年3月1日に6町（厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町）が合併し、島全体が一つの市となった。

2．応対者

対馬市観光物産推進本部 本部長 本石健一郎氏

対馬市観光物産推進本部 係長 扇徹弥氏

対馬市総務部総務課 情報連携戦略室 室長 阿比留保氏

対馬市農林水産部 水産振興課 課長補佐 釜山直樹氏



対馬市役所にて研修

3. 視察項目

(1) 外国人への対応について（土地取得、参政権、厳原まつり）

外国人の土地取得について

『財界九州』2010年7月号に、「島内の0.7%が韓国資本との話も・・・恩恵と混乱に戸惑う対馬」という記事が出た。対馬では韓国資本による不動産取得は約20年前に始まったとされ、一説には全島面積708平方キロメートルのうち0.7%が韓国資本といわれるが代理人として日本人を立てて取得しているケースもあり、正確な実態は把握できないと記されていた。

問題になっている土地は、大洋真珠工場跡地1万平方メートルである。ここは自衛隊の基地に隣接しており、防衛上の懸念が持たれている。

また、経営難や後継者難に陥った民宿や釣り宿も韓国資本に買収されているケースも目立っている。韓国人観光客には海釣りや登山、サイクリングが対馬観光で人気となっておりリピーターも多い。このような韓国人観光客に対し素泊まり千円という低料金が設定されており、宿泊料金は二極化している。

韓国資本による土地取得に関する記事は誤報で、0.7%ではなく、実際には0.0069%と2桁違っていた。東洋真珠跡地に関しても、買収先を民団（在日韓国居留民団）を通じて対馬市が調べたところでは問題のない企業であった。また民宿等もきちんと営業し、税金も滞納していないとのことであった。



阿比留室長 釜山課長補佐 本石本部長
後ろの2名は、若手職員研修の一環として参加

外国人参政権について

上記の問題が巻き起こったなか、民主党が「外国人参政権付与法案」を提案した。これに対し対馬市では危機感を覚え、２０１０年３月に「外国人参政権付与法案」に反対する意見書を採択した。これは外国人の大量移住などによる投票行動で、国の主権や国益などが脅かされる懸念に基づいたものである。

また、対馬市では平成２４年４月１日に「対馬市市民基本条例」を制定したが、住民投票権は、「市議会議員および市長の選挙権を有する住民」にのみ付与しており、当然外国人には付与していない。

厳原港まつりについて

厳原港まつりは対馬最大の夏祭りで、毎年８月第１土・日に開催している。対馬には盛大な色あざやかな祭りはなかったため、昭和５３年に江戸時代に修好や将軍の要職祝賀などの目的に行われていた「朝鮮通信使行列」を４００人規模で再現した行列を追加した。そして昭和６３年から、厳原港まつりのサブタイトルに「対馬アリラン祭り」を追加した。この祭りには約３万人の参加者があり、韓国からの観光客も４００～５００人ある。

今年は、厳原港まつりは開催したが、仏像問題のためアリラン祭りは中止した。アリラン祭りの韓国側の関係者には仏像返還に対する声を上げてほしかったが、無かったので非常に残念だとのことであった。

また、島内の宿泊施設の容量も２２００人であるため、今後大きな伸びは期待できない。

韓国からの観光客について

平成１９年には７万人であったが、平成２４年には１５万人と倍増した。釜山との航路は現在３社が就航していることも増加の要因である。釜山から約１時間であり料金も手ごろであるため、対馬でアウトドアスポーツを楽しんだり、日帰りでパチンコ、ランチを楽しむ人もいるという。また、釜山での免税店での買い物が目的という人もいる。

対馬市としては、レジャー、アウトドアより、「歴史・文化」のまちとしての観光都市を目指している。対馬は歴史上に数多く現れ、古くは魏志倭人伝や、小野妹子を正使とする遣隋使、蒙古襲来、江戸時代の朝鮮通信使、日露戦争日本海海戦等の舞台になっている。また島内各地に砲台跡地があり、沈んだバルチック艦隊から引き揚げた砲台もある。

また、対馬城は松阪城と同様に石垣だけ残っていたが、ふるさと創生事業により櫓を再現した。対馬藩主宗家では李氏朝鮮から姫君が嫁いでいたこともあり、韓国人団体観光客で賑わっていた。



再現された対馬城の櫓

(2) 漁業振興について

島国の対馬では昔から漁業が盛んであった。イカ、ブリ、マグロ、マアジ、サバやアワビ、ウニ、海草類、アナゴが多く獲れていた。しかし、近年では高齢化、新規就業者不足により漁獲高は落ち込んでいる。

ピークは昭和58～59年頃で、総漁獲高は45000トンで300億円に上ったが、現在では、15000トン、130億円と3分の一近くとなった。

磯焼けによる海草の減少がそれをエサとするウニ、アワビの減少につながっている。また近年の燃料費高騰により小規模の漁師は採算がとれなくなっている。

これに対して対馬市は「海洋保護区設定」に取り組んでいる。ハイテク機器を使用した乱獲により貴重な水産資源が減少しており、これを食い止めるためである。平成22年6月に「海洋保護区を考えるシンポジウム」を開催し、同9月に第1回海洋保護区設定推進協議会を開催した。以後6回開催し、保護区設定に向け議論している。この協議会のメンバーには九州大学、長崎大学の教授も入っており、科学的な根拠をもとに、平成25年度末に報告書を完成させる予定である。

「21世紀の漁業担い手確保推進事業」では、平成25年度に2300万円予算計上している。これは新規漁業就業者に対し月額15万円の補助を与えるものである。また、保険料加入料、漁業資材購入費の補助金メニューもある。

平成15年から24年までの実績で14名が参加し、うち5名が漁師として独立している。

輸送コスト助成事業として、鮮魚・活魚を本土へ輸送するコストの一部を助成することで、島内漁協の組合員および準組合員の生産意欲および所得の向上を図っている。

補助額は、1箱あたり120円を上限に補助率3分の2以内としている。また箱換算できないものは、1kgあたり24円を上限としている。この制度は、国の「漁業経営セーフティーネット構築事業加入者」が対象となっている。個人の漁師は年収100万円から200万円の人が多く、前述の共済に未加入の人が多く、島内の漁師の加入率は5%程度であり、ソナーを備えた大型船を持った漁師しか、この制度は利用できていないのが現状である。

4. 所感

(1) 外国人への対応について

外国人の土地購入に関しては、もっと深刻な問題かと思っていたら、実際にはたいした問題ではなかった。この程度のことなら日本全国どこでもあるようなレベルで、国境の町として危惧するようなものではないと感じた。

また、アリラン祭りに関しても、「朝鮮通信使行列」は史実に基づいたものであり、歴史・文化による観光都市を目指す対馬市として一つの目玉になると思うが、最近の日韓関係はまことに残念である。早く関係修復に動いてほしい。

個人的には、在日韓国人（民団）が多く、韓国からの長期滞在者も多く飲食店等で働いているイメージを持っていたが、実際は民団が70人弱、ビザで20～30人が滞在しているとのことで、100人以下とイメージとは全く違っていた。

雑誌・インターネットだけの情報はゴミ情報が多いというのがまさにその通りであった。やはり現地での調査が大切だと感じた。

(2) 漁業振興について

漁業も農業・林業と同じく後継者不足、低収入、高齢化という問題を抱えている。農業は農地集約による大規模化へシフトしていくようであるが、これは小規模兼業農家の土地を専業農家に集約するというものである。対馬での漁業は専業であるため、その手法は使えない。

お金にこだわらず海で生活したい若者にIターンを募ったり、レジャー関係の副業を持ったりしながら漁業の芽を潰さない施策は無いものだろうかと思う。

(3) その他

対馬市では視察受け入れ時に若手職員を勉強のために同席させている。実際の自部署の業務内容も客観的に整理できるし、他地域からの議員の質問は、ある意味では全く自分たちの考えと違うこともあり、たいへん有意義なものであると感じた。

松阪市でも、若手職員の研修の一環として、ぜひ取り入れてほしい。

以上